

1. これまでの取組で効果があった事例の紹介

児童生徒の登下校に関する対応について

- ・部活動の終了時間を早め、下校時刻を早める（夏 19:00→18:15 冬 18:30→18:10）ことで、放課後の業務負担の軽減につながった。

授業時数や学校行事のあり方について

- ・運動会の開催を1日から半日にすることや、種目の固定で、全体での練習時間が減り負担軽減につながった。
- ・卒業式、入学式を簡素化したことで、練習時間や式典時間の短縮、準備に関する業務の縮減へとつながった。
- ・慣例的・形式的な要素を見直し、朝の会の今月の歌を取り止めた。
- ・学期始めや学期終わりの時期に、成績処理等を行うための時間を確保し、教員の負担を軽減した。
- ・毎週実施していた学校研究の検証を毎月1回以上とするなど柔軟な運用とした。

ICTの活用について

- ・保護者との連絡にアプリを導入したことで、朝の業務負担が軽減した。
- ・校務支援システムの活用により、文書受付や出張の確認、復命書や学校日誌の作成を効率的に行うことができるようになった。
- ・職員全体に共有すべきこと（職員・生徒への連絡事項や生徒指導上の注意点など）について、クラウドを効果的に活用することで、迅速に情報伝達できるようになった。
- ・グーグルカレンダーによる各担任の面談時間帯の共有により、連絡・調整等に要していた時間の短縮につながった。
- ・QRコードの作成法を全職員で共有することで、業務のデジタル化の促進につながった。
- ・採点ソフト「百問繚乱」による採点支援で、採点効率が上がり採点にかかる時間が減少した。
- ・配布プリントを、グーグルクラスルームに掲示することで、ペーパーレス化が進み、印刷等にかかる時間が減少した。
- ・授業評価などのアンケートをグーグルクラスルームやグーグルフォームで実施することで、集計作業が軽減された。

外部人材の活用、外部機関との連携について

- ・教員業務支援員による印刷業務補助のおかげで、教員の業務が軽減された。
- ・SCに面談をお願いしたり、相談したりすることで、教員の心理的負担軽減につながった。
- ・発達障害アドバイザーやSSWに今後の対応や方策についてアドバイスをもらうなど、教員の心理的負担軽減につながった。

その他

- ・定時退校日を月に複数日に増やし、管理職から帰宅の声かけを促すことで、勤務時間が削減されてきている。

2. 時間外勤務時間が月80時間超の教職員の割合をゼロに近づけるための取組についての意見

- ・（市）教委が時間外勤務時間に関する資料を作成し学校へ送付する、気になる教員について校長へ連絡するなど、働き方に関する意識を高める。
- ・管理職による面談、校務分掌や部活動指導の分担の見直しをする。
- ・19時30分の退校時間の徹底を行う。
- ・タイムマネジメントなどの講習会を行い、具体的に効率を高めるためのスキルを提示する。
- ・定時になったら（もしくは1時間後くらいに）職員室の電源をOFF（照明、PCまたはネットワークを使えないようにする）。
- ・文化部も含めた部活動支援員の配置拡充や部活動の活動日数や活動時間の削減を行う。
- ・SC、SSW、SSS、ICT支援員の配置の拡充をする。
- ・スクール・サポート・スタッフをもっと活用するために、各分掌で委託内容を検討する。
- ・生徒指導・保護者対応については、級外を含む複数で対応（組織的な対応）をする。また、外部への対応は、スクールロイヤーの活用も考える。
- ・担任の負担軽減のための複数担任制を導入する。
- ・教員研修の削減を図る。